

私たちの町の文化財

■第3話 池ができるまで

味生池は、当時肥後国の長官である国司だった道君首名（みちのきみのおびとな）によって造られました。この人物はすごい方で、歴史書『続日本紀』で個人の業績が記されている僅か4人のうちの一人です。701年に制定された大宝律令と呼ばれる法律の制定や遣新羅大使に任命され朝鮮半島へ渡るなど要職に就き功績を修めています。

和銅六年（713年）に筑後守に任名され、肥後守を兼任します。首名は農民に産業を奨励し、果樹・野菜栽培、畜産などの農耕を勧めるために規則を定めて教えました。自ら各地を巡察し、教えを守らないものには罰を与えるなど徹底していました。人々は初め首名のことを悪く言いますが、次第に首名の教えが正しいことに気付き考えを改めるようになりました。

このように農業を奨励した首名は耕地の拡大と安定した収穫量の確保のために味生池を造ったのです。

ですが一つ謎があります。味生池のほとりにあったとされる池辺寺の創建は和銅三年（710年）とされていますので、首名が味生池を造る前の話になってしまいます。首名は死後、民の信奉から上高橋にある高橋東神社で神として祀られます。御神木である楠は樹齢1300年以上と言われています。もしかしたらこの楠が答えを知っているのかも知れません。

熊本市文化振興課 芥川太朗

こんな頃から果物や野菜栽培、畜産などが行なわれていたとは驚き：：果物の種類と味はどうだったんだろう？畜産は農耕用？食肉用？想像が広がるモン。

